

芸予諸島・上島島域における製塩の歴史

～佐島・宮ノ浦遺跡の発掘成果とその意義～

平成23年夏、越智郡上島町佐島の宮ノ浦（ミヤノ）遺跡の発掘調査で、古墳時代前期と中世の製塩跡を発見しました。いずれも上島島域では初めての発見ですが、とりわけ中世の塩田跡は中世史でも著名な「弓削島荘」にも関わり、注目されています。今回は調査成果と二つの時代の製塩に関わる討論を行います。

日時：平成24年2月18日（土）12時受付開始 13時開演
会場：愛媛大学メディアホール（愛媛大学城北キャンパス）
内容：

基調報告Ⅰ

上島町佐島・宮ノ浦遺跡の第1次発掘調査成果

幸泉満夫（愛媛大学法文学部考古学研究室）

基調報告Ⅱ

芸予諸島北部地域における古墳時代土器製塩の動態

柴田昌児（愛媛県埋蔵文化財センター・広島大学大学院）

基調報告Ⅲ

文献からみた弓削島荘における塩の生産と流通

山内 譲（松山大学法学部）

討論会

ポスター・セッション

亀澤一平（修士1）「上島諸島の環境と歴史」 下山貴生（修士1）「中世塩田研究と宮ノ浦遺跡」
高森直人（学部3）「佐島宮ノ浦遺跡第1次調査成果」 小野隼也（学部2）「宮ノ浦遺跡出土の古墳時代・製塩土器」
斧香菜子（学部2）「宮ノ浦遺跡出土の白磁碗」

主催：愛媛大学法文学部考古学研究室

共催：愛媛大学法文学部人文学科

後援：^{はた}伯方塩業株式会社

* お問い合わせ先： 村上恭通 murakami@ehime-u.ac.jp
790-8577松山市文京町3 東アジア古代鉄文化研究センター内



製塩土器



白磁

